

報告事項エ

第1回船上山少年自然の家・大山青年の家 運営委員会の概要について

第1回船上山少年自然の家・大山青年の家 運営委員会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成25年6月28日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

第1回船上山少年自然の家・大山青年の家 運営委員会の概要について

家庭・地域教育課

1 日 時

(船上山少年自然の家運営委員会) 5月29日(水) 13:30~15:30

(大山青年の家運営委員会) 5月31日(金) 10:00~12:00

2 場 所

船上山少年自然の家、大山青年の家

3 概 要

施設視察、施設の概要説明等を行った後、今後の検討課題等（施設の運営体制・事業内容・民間の力の活用・利用料金）について協議を行った。

〈船上山少年自然の家運営委員会での主な意見〉

- ・単なる宿泊施設なら民間でもいいかもしれないが、青少年育成のためなら県も金をかけるべき。
- ・経費のことだけを考慮してはいけない。子どもたちに対しての効果を実績として示していかないとけない。
- ・実績評価は入所者数ではなく、子どもたちにどのような効果があったのかではかるべきではないか。
- ・指導員による十分なサポート体制がとられており、採算を考慮すれば、民間では当施設の利用料金で運営することは無理である。
- ・事業プログラムなど、ソフト面を充実させ、オンリーワンの施設を目指すべき。
- ・施設を設置した経緯等を紐解くことが必要。民間では営利優先になるのではないか。

〈大山青年の家運営委員会での主な意見〉

- ・いじめ、不登校など行き場のない子どもたちに対応したプログラムを考えることはできないか。
- ・どのような事業を委託するのか、どのような事業を民間と連携して実施するのか、具体的に示して欲しい。
- ・利用者（メインは小中学生）の研修目的をサポートできる指導体制が必要。
- ・施設に教員を配置していることにより、教員のスキルアップが図られることは直営のメリットなのではないか。
- ・目標は利用者数でいいのか。教育は採算にしばられない目標設定が必要。
- ・利用者数が右肩上がりなのはすごいこと。なぜ、この施設が受け入れられているのか分析することが必要ではないか。

4 今後の予定

- ・第2回委員会では、施設のあり方等について、より具体的な議論を行う。（7月下旬に開催予定）
- ・9月に第3回委員会を開催し、委員会としての意見をとりまとめる。

【参考】委員の構成

船上山少年自然の家運営委員会		大山青年の家運営委員会	
氏名	役職等	氏名	役職等
川口 有美子 (委員長)	鳥取環境大学環境学部環境学科講師	藤田 耕一 (委員長)	島根大学教育学部附属教育支援センター准教授
高橋 義博	倉吉市子ども会育成連絡協議会長	西林 いずみ	県子ども会育成連絡協議会理事(米子市)
重信 眞也	三朝南小学校長(東伯郡小学校長会)	森谷 哲郎	南部町立会見小学校長(西伯郡小学校長会)
小谷 次雄	県公民館連合会長	前田 義機	青少年育成鳥取県民会議委員 (青少年育成推進指導員(大山町))
上田 啓悟	赤碕ダイハツ有限公司 専務	伊澤 大介	有限会社森の国 社長
川部 洋	NPO法人明倫NEXT100 理事長	秦野 博行	一般社団法人米子青年会議所 まちづくり青少年委員会委員長
桑本 圭二	一般財団法人倉吉市教育振興事業団 理事長	杉原 弘一郎	一般財団法人米子市文化財団 理事長
小林 克美	琴浦町教育委員会教育長	山根 浩	大山町教育委員会教育長

5月29日欠席：重信委員、小林委員

5月31日欠席：前田委員、杉原委員、山根委員